

# 地方 紀民 行鉄

## 上毛電気鉄道株式会社



赤城山を車窓に望み  
電車は進む。  
小さな富士と  
渡良瀬川を渡った先、  
広がる古い街並みには  
お楽しみが一杯。

**上** 毛電気鉄道赤城駅から徒歩15分。12月  
上旬の高津戸峡は、冬景色の一步前。

周囲の山々には落葉樹より常緑樹が多いよ  
うで、葉の生い茂った木々が立ち並んでい  
るけれど、さすがの常緑樹も寒さの中で色褪  
せて、7対3で冬が優勢。

「おおま  
ま 赤城駅」

高津戸峡の紅葉は、赤というより茶色い感  
じ。その分、朱色に塗られた高津戸橋が一層  
鮮やかに映えている。渡良瀬川沿いに設けら  
れた遊歩道に入ると木々が日差しを遮って、  
ちよつと薄暗い。運よく天気にも恵まれ、気温  
にも恵まれ、徒歩15分の道行きでコートの前  
を開けるくらいには暑くなっていったのに、  
あつという間に寒くなり、遊歩道を離脱す  
る。

上毛電気鉄道は平日の日に、30分間隔で  
やってくる。次の電車に間に合うように、急  
いで赤城駅へと歩き戻る。

朝、来た時には気づかなかったけれど、赤  
城駅の駅舎には「赤城駅」の上や横に「おお  
まま」と書き添えた駅名表示が掲げられて  
いる。「AKAGI」とローマ字表記もあるの  
で、「赤城」と書いて「おおまま」と読ませる  
わけではなく、では「おおまま」とは一体  
何なのか。赤城駅の所在地「みどり市大間  
々町大間々」と、開業当時の駅名は「新大  
間々」だったと、なるほど、かつての駅名  
の名残を残した表示をしているということか。

あれこれ調べている内に電車が到着。次の

目的地は赤城駅から三つ先の「富士山下駅」。

富士山の標高は？

富士山下駅は渡良瀬川のすぐ隣。渡良瀬橋  
を渡る電車が撮影できる、上毛電気鉄道の  
人気撮影スポットが真横にある。その上、富  
士山下駅の近くには「富士山」があるとい  
うから、行ってみないわけにはいかない。

富士山下駅の駅舎を出て振り返ると、駅舎  
を囲むフェンスには「富士山下駅」の表示。  
横には「ここは群馬県桐生市です」という言  
わすれがなの表示が並ぶ。静岡県・山梨県に  
位置する「富士山」と間違える外国人観光客  
がいるためらしい。

世界遺産・富士山は標高3776m。ここ  
ら桐生市の富士山は、富士山信仰から全国各  
地に作られた山の一つで、標高は1600m。  
読み方も「ふじさん」ではなく「ふじやま」と  
違っている。霊峰・富士を目指していた人  
が、標高1600mの山にたどり着いたら、さ  
ぞ驚くことだろう。一方、標高3776mに  
登る気力も体力もない身には、標高1600m  
は適切。それでは登山といきましょう。

富士山下駅は本場に富士山の真下にあつ  
て、駅舎のすぐ向かい側で「富士山入口」と  
いう小さな木製の矢印が、落ち葉に埋もれた  
小道を指さしている。「小道」としか言いよ  
うがない登山道だが、侮れない急坂。山頂ま  
で一気に登ってしまえるだろうと思っていた  
のに、途中で息が上がってくる。

立ち止まること2、3回、所要時間は5分  
弱。山頂と思われる場所に到着。もう少し上



赤城駅の駅名表示には「おおまま」というかつての駅名も表示



紅葉はすでに散り落ちてしまったらしい高津戸峡

### 上毛電鉄上毛線

【じょうもうでんでつじょうもうせん】

中央前橋駅から西桐生駅まで25.4km 23  
駅を52分でつなぐ。車窓からは赤城山  
が望める。





渡良瀬橋梁を渡る上毛電鉄。撮影時は足元注意



木製の看板が指し示す登山道を上った先には、いい景色



富士山下駅には「ここは群馬県桐生市です」の表示も

富士山下駅から2駅で終点・西桐生駅に到着。桐生には、重要伝統的建造物群保存地区に選ばれた古い街並みが残る。西桐生駅の駅舎も、改札口や券売機を囲む木枠などに、なんとも言えないレトロな趣がある。

駅でもらった「桐生まちなか地図」を片手に、まず向かうのは桐生西宮神社。関東では唯一の西宮神社（兵庫県）の直系分社。毎年11月に行われる商売繁盛を願う「えびす講」には多くの人が参拝するというが、祭りの季節が過ぎた今、社務所もお休みで社は森閑と

### 御朱印が欲しい！

登山道はきちんと整備されているけれど、落ち葉に埋もれてよく見えない。登りより下りのほうが足元は危ない。木の枝や葉っぱに邪魔されながら橋梁を渡る電車を撮影する、つまりよそ見をしていれば、足元への注意は当然疎かになり……。落ち葉のクッションのおかげでまったく痛くはなかったし、人目もまったくなくなっていたけれど、滑って転んだ自分が恥ずかしく、そそくさと富士山を立ち去る。

がありそうだけど、登れる道が見当たらないので登頂完了。これで「富士山に登ったことがある」と言っても嘘にはなるまい。

山頂からは周辺の街並みが見渡せて、予想以上にいい眺めが楽しめるし、登山道の途中からは渡良瀬橋梁も見下ろせる。わき目も振らずに登った分、下りはゆっくり景色を楽しむ。渡良瀬橋梁を渡る電車が撮れそうなポイントを探しつつ下山。

富士山下駅から2駅で終点・西桐生駅に到着。桐生には、重要伝統的建造物群保存地区に選ばれた古い街並みが残る。西桐生駅の駅舎も、改札口や券売機を囲む木枠などに、なんとも言えないレトロな趣がある。

駅でもらった「桐生まちなか地図」を片手に、まず向かうのは桐生西宮神社。関東では唯一の西宮神社（兵庫県）の直系分社。毎年11月に行われる商売繁盛を願う「えびす講」には多くの人が参拝するというが、祭りの季節が過ぎた今、社務所もお休みで社は森閑と

### 御朱印が欲しい！

登山道はきちんと整備されているけれど、落ち葉に埋もれてよく見えない。登りより下りのほうが足元は危ない。木の枝や葉っぱに邪魔されながら橋梁を渡る電車を撮影する、つまりよそ見をしていれば、足元への注意は当然疎かになり……。落ち葉のクッションのおかげでまったく痛くはなかったし、人目もまったくなくなっていたけれど、滑って転んだ自分が恥ずかしく、そそくさと富士山を立ち去る。

がありそうだけど、登れる道が見当たらないので登頂完了。これで「富士山に登ったことがある」と言っても嘘にはなるまい。

山頂からは周辺の街並みが見渡せて、予想以上にいい眺めが楽しめるし、登山道の途中からは渡良瀬橋梁も見下ろせる。わき目も振らずに登った分、下りはゆっくり景色を楽しむ。渡良瀬橋梁を渡る電車が撮れそうなポイントを探しつつ下山。



円戒不動山光性寺の12月の御朱印の一つ。種類が豊富で選べる



桐生西宮神社。社務所が開いていれば御朱印もいただける



くすんだピンクの木枠がレトロな雰囲気のある西桐生駅舎。時刻表も雰囲気がある